桜十字病院　広報誌

桜ふわり

SakuraFuwari

2023.10
autumn
Vol.26

<表紙の写真>

第14回NST研究会

4年ぶりに会場を使用しての開催となったNST研究会。「医療法人ゆうの森」理事長の永井康徳先生をお招きし、ご講演頂きました。WEBとのハイブリット開催になり、計649名と大変多くの方にご参加頂くことが出来ました。

詳細記事→P09へ

新入職医師ご挨拶

緩和ケア　吉本　美和

外来紹介

泌尿器科

・看護部長挨拶

◎脳卒中リハビリセンター

自動車運転再開支援

・桜十字の在宅サービス Let's
・イベント報告【Volcafe ぶちバケろ】
・NEWS TOPICS
・協力医療期間の医師紹介
・地域連携室からのご案内

新入職医師ごあいさつ

死は「生を全うする」瞬間

2023 年 1 月から当院緩和ケア病棟に着任いたしました。これまでいくつかの施設を経験してきましたが、ここほど心のこもったお見送りをする施設を私は知りません。まず、エンゼルメイクが見事です。旅立たれる方みなさん、大変血色良く生き生きとした表情をしています。また、病棟には花を世話してくれる専門のケアワーカーがいるのですが、お見送りの際には患者さまの胸元に摘みたての美しい花を添えてくれます。お見送りする度私自身感動しますし、ご家族はもっと慰められていると思います。

死は「生を全うする」瞬間だと思っています。言うまでもなく、死は、忌むべきものでも、不吉なものでもなく、それまで懸命に生きてこられた人生を讃えるまさにその瞬間です。医療において患者の尊厳が守られなければいけないのは言うまでもありませんが、「治療」を完遂させるために、患者の「尊厳」が二の次になってしまわざるを得ない現状がしばしば生じます。そのことを否定はしませんが、こと緩和医療においては、どんな状況であろうと「尊厳」を優先します。

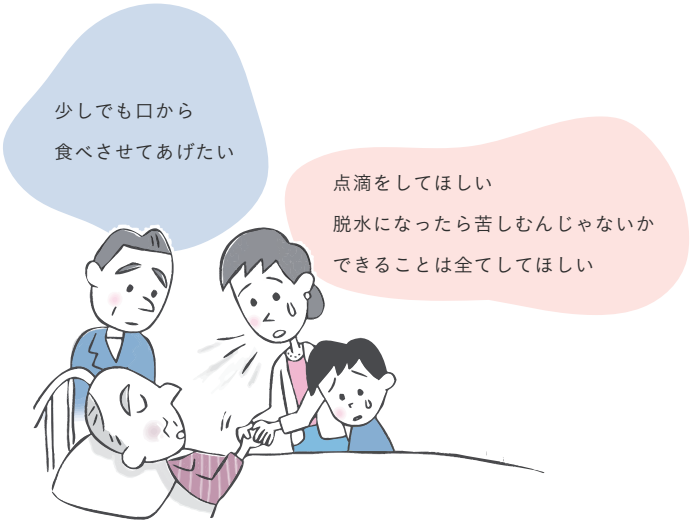
緩和医療はともすると「何もしない」医療と言われることもありますが、実は、「何もしない」ことが「尊厳」を守ることにつながることもあります。我が国で歴史が長いとは言えない緩和医療を、ここ桜十字病院でさらに充実したものにしたいと考えています。

これからの緩和ケア

終末期のプロセスと家族の望み

緩和医療の課題として大きく 2 つのものがあります。一つは、がんと共生していく生活において、できる限り本人が快適だと感じられる状況を創り出していくこと。もう一つは、人が死に向かう自然なプロセスを、邪魔せず、穏やかにサポートしていくことです。

人は、死に向かっていく過程で、食事が食べられなくなり、尿が出なくなり、傾眠となって意識がだんだんを薄れてきます。そのプロセスで、痛みなどの症状が生じれば薬剤などを用いて緩和し、それが上手に図れると、人はほぼ苦痛を感じることなく、いわゆる「枯れながら」人生を全うすることができます。



しかしここで、しばしば問題となるのが「家族の望み」です。患者の食が細くなってきた時、多くの家族は食べられないことを心配し、なんとか栄養をつけてもらおうと必死になります。そして食べられない患者に点滴をすることを望み、経管栄養を希望します。身体拘束さえ望まれる場合があります。最期の時間を過ごしておられる方にとって、しばしばそれらの処置は負担であり多大な苦痛となります。

いかに終末期のプロセスを家族に理解してもらうか、それは一施設だけの問題ではなく、社会的なコンセンサスの変化を問う問題だと考えています。他施設とも情報交換しながら、今後の課題として取り組んでいきたいと思っています。

【経歴】
鳥取大学医学部附属病院
日本医科大学千葉北総病院
永生会　みなみ野病院
日本緩和医療学会認定医
日本抗加齢医学会専門医

緩和ケア認定医
吉本 美和

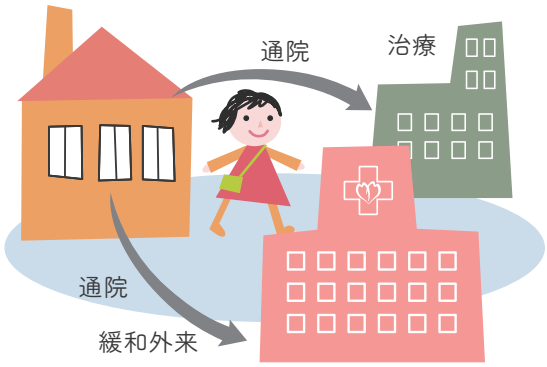
【所属学会】
日本緩和医療学会／日本老年医学会 / 日本抗加齢医学会／日本美容皮膚学会

緩和ケアを活用しながら、さまざまな過ごし方が出来ます

ずっと自宅で

医療・看護・介護の訪問サービスで、ご自宅での生活をサポートします。桜十字では訪問看護・訪問介護を提供しています。

治療をしながら緩和ケア利用



治療と緩和ケアは両立できます。病気の「つらさ」を我慢する必要はありません。

家、ときどき病院

食欲が落ちた、調子に波がある等、必要な時に入院できるバックベッドとして、緩和ケア病棟をご利用いただけます。

病院、ときどき家

入院して緩和ケアを受けながら、様子を見て外出・外泊や短期退院等でご自宅に帰ることができます。

緩和ケアの内容

●多職種によるチーム医療

医師・看護師・ケアワーカー・リハビリスタッフ・薬剤師・管理栄養士・ソーシャルワーカーなど、さまざまな専門家がチームを組んで患者さまやご家族のご要望に沿ったケアをご提供します。

●不快な症状のコントロール

患者さまが直面している苦痛や不快な症状を取り除き、予防するケアを行ないます。

●ケアの内容は十人十色

ご自分らしく充実した毎日を送っていただけるようお一人おひとりの個性を大切にケアを行ないます。

●ご家族とのつながりを大事に

ご家族に宿泊していただける場所をご用意いたしました。

●在宅支援

ご自宅で過すことを希望される患者さまには在宅療養支援診療所などと連携してサポートいたします。

緩和ケアのご相談　地域連携室直通

096-378-1120

外来紹介 泌尿器科

すっきりぐっすり排尿外来

桜十字病院では 2021 年 4 月から泌尿器科の診療を開始しました。特に排尿障害の診療に力を入れています。すっきりと排尿できて、夜もぐっすり眠れるようにと「すっきりぐっすり排尿外来」とさせていただいています。排尿障害は命に係わる病気ではありませんが、生活の質を損ない、快適な生活が送れなくなります。排尿障害の中で頻度が高いのは尿もれ、前立腺肥大症と夜間頻尿です。他にもさまざまな泌尿器科の病気があります（血尿、膀胱炎、腎盂腎炎、尿路結石、泌尿器系のがんなど）。泌尿器に関する症状で気になる場合は、恥ずかしがらずに当院にご相談ください。

尿もれ（切迫性・腹圧性）

尿もれにお悩みの方は女性に多いですが、男性にも見られます。尿もれには、2 つのタイプがあります。急に尿意をもよおし、トイレまでに間に合わずもれてしまう「切迫性尿失禁」と、重い荷物を持った時や咳・くしゃみの時など、おなかに力が入った時にもれる「腹圧性尿失禁」です。

「切迫性尿失禁」は、運動療法や薬物治療などを行います。「腹圧性尿失禁」は女性に多く、妊娠や出産、加齢に伴うホルモンの減少により尿道を支える筋肉が弱くなることなどが原因です。その筋肉を強くする運動（骨盤底筋訓練）等を行うことで改善します。

前立腺肥大症

前立腺肥大症は男性特有の病気です。尿道を取り巻く前立腺が加齢とともに腫大して尿道が狭くなり、排尿に関するさまざまな症状がみられます。

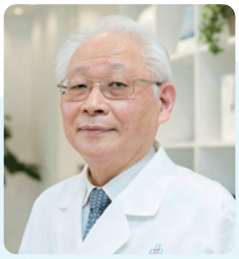
尿の勢いが弱くなる、排尿に時間がかかる、尿の切れが悪いなどに加えて、前述したような尿もれ（切迫性尿失禁）も見られます。また症状が進むと尿がでなくなること（尿閉）もあり、緊急の処置が必要です。

前立腺肥大症の治療薬としては、尿道の抵抗を下げる薬、前立腺を小さくする薬などがありますし、尿もれに対する薬を追加投与することもあります。

前立腺肥大症は良性の病気ですが、前立腺には前立腺がんもありますので、そのチェックも必要です。

夜間頻尿

就寝中に 1 回以上トイレに起きることを「夜間頻尿」と言います。60 歳を超えると半数以上の方が 1 回以上トイレに起きるので、生活に支障を来すのは 2 回以上といわれています。夜間頻尿によって、睡眠不足で昼間に居眠りをする、うつ状態になる、夜間のトイレ時に転倒して骨折などを起こすことがあります。さらに、死亡率が高くなるという報告もあります。治療には薬剤の他に生活改善も必要です。夜間の排尿回数は水分、塩分、カフェインやアルコールの摂取を控えることで減らせます。また、ふくらはぎなどの下肢にたまった水分が原因で夜間頻尿を起こすこともあります。これは、夕方にウォーキングをしたり、枕やクッションなどを使って足を上げて、30 分程度横になったりすることで改善することがあります。



泌尿器科
上級顧問
吉田 正貴

【経歴】
医学博士 / 熊本大学医学部泌尿器科准教授 / 国立長寿医療研究センター副院長 / 日本泌尿器科学会 泌尿器科指導医 / 日本排尿機能学会 排尿専門医 / 日本透析医学会 透析専門医

【外来診療】※予約制
水曜日・金曜日：午後 1 時～午後 5 時
電話番号：096-378-1111

看護部長あいさつ

2023 年 4 月から桜十字へ

看護部長
井手 美智子
【経歴】
昭和 57 年 4 月　熊本赤十字病院入職
令和 5 年 3 月　熊本赤十字病院定年退職

この 4 月から桜十字病院の看護部長に就任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。熊本赤十字病院に新卒で入職し、今年 3 月末で定年を迎えました。少子高齢化に加え、新型コロナ感染症の蔓延など、医療情勢がめまぐるしく変化するなか、医療と介護のシームレスな連携を行う桜十字病院において看護部長の重責を託され身の引き締まる思いです。特に、コロナ禍を契機とし、一人ひとりが自身の働き方、キャリアをどう選択し、形成していくのかを今まで以上に問われる時代になった今、前職で培った教育に関わる経験と看護部の特色である患者さまの自立を支援する看護技術「ヒューマニティケア」を掛け合わせ、個人のライフスタイルに応じた多様で柔軟なキャリアを自分で「選択」できる働きやすい環境づくりを看護部とともに進めてまいります。

看護部の取り組み紹介

ヒューマニティケア

2020 年より、桜十字では患者さまの自立を支援するリハビリテーション看護を導入しました。寝たきりや意識障害、認知症などの患者さまが生活行動を「可能な限り自分でできるように」支援することを目的とした、NICD という看護技術を取り入れたケアです。身体調整看護技術・身体解放看護技術・生活行動再獲得看護技術という 3 つのコア看護技術を用いて生活行動の回復を促し、日常生活動作の回復を目指します。現在、14 名のスタッフがエキスパート生として活躍しています。

口から食べるプロジェクト

患者さまに食べる喜びを取り戻していただくとともに、生活の質を向上したいという思いから、2016 年より病院を挙げて活動しています。多職種によるチームアプローチで介入した患者さまのうち 70％以上の方が 3 食経口摂取を達成しております。

海外人材の活躍

2020 年より、技能実習生の受入を開始し、現在では 30 名の海外人材が介護職として活躍しています。介護リーダーが中心となり介護教育を進める他、日本語教育にも力を入れています。

桜十字の社会復帰サポートプログラム

自動車運転再開支援

脳卒中の後遺症などにより加療中の患者さまは、社会復帰を目指してリハビリに取り組み、その中には運転再開を希望される方もたくさんいらっしゃいます。当院では、仕事への復帰のため、また、趣味・レジャーとして運転を再開したいといった、患者さまの「もう一度運転したい」という思いをサポートするために、連携する運転訓練機関と協力し、適切な評価・リハビリを行っています。

当院の主な支援対象者

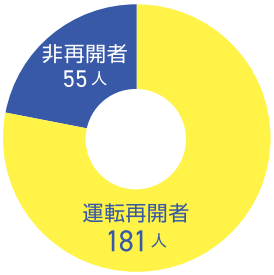
- 自動車運転免許を保有している
- 脳卒中・脳外傷の既往歴がある
- 認知症の診断を受けていない
- 過去2年間てんかん発作を起こしていない

実績（支援者数・実車件数）

2017年 5月～ 2022年 3月 累計

支援実施者総数

236 人



実車件数

延べ 253 件

教習所内　69 件
一般道路　184 件

当院では支援者に対し1回以上、実車評価を実施しておりますので、より実践的な評価が可能です。

※実車評価は、院内評価基準を満たした方のみおこないます。

自動車運転再開までの主な流れ

1 主治医が運転可能か判断
脳卒中の再発やてんかん等のリスク、
処方中の薬等

2 セラピストによる面談
運転の目的、免許証の確認、
ご家族の同意、支援の流れ等

3 神経心理学的検査＆身体検査
筆記試験と身体検査を行い、運転の適性を判断

4 ドライブシミュレーター
運転能力の評価と訓練を行う

5 教習所にて実車評価
実車走行による訓練、
ドライブレコーダーを使用して、
その場で振り返り評価を行う

6 診断書を作成
神経心理学的検査とドライブシミュレーター、
実車評価の評価をもとに作成

7 免許センターでの適正検査
運転の可否、補助装置の有無などが判定される

自動車運転再開支援の内容

神経心理学的検査

主治医の診断書作成に最も必要な情報です。判定基準を満たした方が、実車評価へ移行していきます。

ドライブシミュレーター

神経心理学的検査と比較し評価をサポート。短時間で高次脳機能を加味した運転能力を５段階で評価・確認ができます。

実車評価

教習所等の敷地内コース、一般道路（公道）で実車します。ドライブレコーダーにて撮影した動画でフィードバックを行います。

他にも様々な運転再開に向けたトレーニングがございます。お気軽にお問い合わせ下さい。

もっと詳しく！

▲自動車運転再開支援HP

自動車運転再開支援のお問い合わせ

096-378-1120 地域連携室直通

通所介護

Let's リハ！

「したい」を、「できる」に。
桜十字の桜十字の新感覚リハビリジム。

店舗対抗 eスポーツ大会

頭と体を同時に使うことで、脳が活性化し記憶力や認知機能やを高める効果が実証されている「e スポーツ」。桜十字の Let's リハでは、昨年 4 月より導入を開始。リハビリレクリエーションの 1 つとして、性別・年代問わず様々な利用者さまに楽しんでいただけています。今年の 5 月には、健軍店・熊本北店・近見店・長嶺店の 4 店舗の「対抗 e スポーツ大会」を開始しました。コロナ禍で難しくなった店舗を超えた「交流の輪」を生むことができ、お喜びの声をいただきました。

Let'sリハ!利用に関するご相談・お問い合わせ
Let'sリハ！事業部
〒861-4173　熊本県熊本市南区御幸木部1丁目1番1号
Tel：0120-396-022

桜十字の在宅サービス一覧 お問い合わせ：0120-396-022

住み慣れた地域でできるだけ長く生活できるよう、多様な在宅サービスを提供しております。お気軽にご相談ください。

- 訪問看護 Let's ナース！
- 訪問介護 Let's ヘルパー！
- 福祉用具 Let's レンタ！
- 訪問リハビリ Let's イエリハ！
- 通所リハ Let's リハ！ PLUS
- 居宅介護支援 Let's ケアプラン！

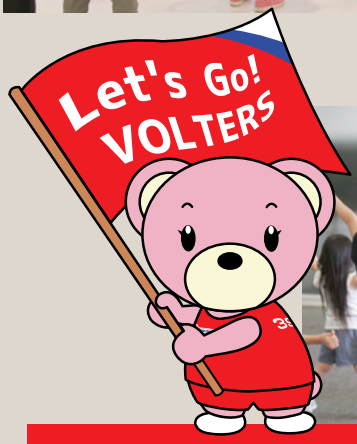
Volcafe ぶちバケろ。

8/19SAT - 20SUN 14：00 - 17：00 開催

プロバスケットボールチーム熊本ヴォルターズと桜十字病院のコラボレーション企画「VolCafe」を開催しました。2日間にわたって行われた企画には連日多くのブースターが訪れ、大盛況でした！

選手と撮影会

磯野選手・石橋選手の2名が桜十字病院に来院！病院に訪れたブースターだけでなく利用者さまや職員とふれあい、記念撮影をしました。



ＶＧチア体験

熊本ヴォルターズのチアリーディングチーム・VGのメンバー全員が桜十字病院にてチア体験教室を行いました。
1回目は子供向けに、2回目は大人向けに行い、多くの参加者にチアリーディングを体験していただきました。

ぼるたん

熊本ヴォルターズ
マスコットキャラクター

ヴォルターズへの想いを ぶちバケろ。

来院された方々から10月に開幕する新シーズンに向けたメッセージを書いていただきました。皆さんの選手やチームに向けた熱い想いがあふれています！この応援メッセージは開幕戦の試合会場に展示予定です。

2023-24 シーズン開幕！ 試合日程►

kumamoto VOLTERS × 桜十字 Sakurajyuji Group

メディカルサポート決定！

桜十字グループは、プロバスケットボールチーム熊本ヴォルターズのメディカルサポートをさせていただくこととなりました。
障害予防とパフォーマンス向上の観点から、理学療法士による練習後や試合後のケアを実施させていただきます。さらに、選手一人ひとりに専属のヘルスケアマネージャーがつき、保健師による総合的な生活管理から、管理栄養士による日常食、最新のデバイスによる睡眠管理まで、個別性のある健康管理を医療の面からサポートいたします。

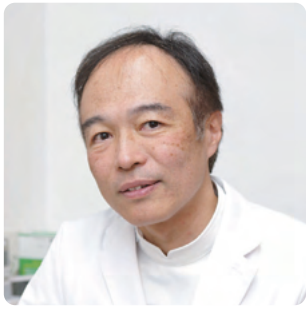
第 14 回桜十字 NST 研究会を開催しました

約 4 年ぶりに会場を使用しての開催となった今回は、在宅医療を主体とする有床診療所や訪問看護、訪問介護等複数の関連事業を束ねる「医療法人ゆうの森」理事長の永井康徳先生をお招きし、「食支援は究極の多職種連携」というテーマでご講演いただきました。食支援が進んでいるたんぽぽクリニックの事例の数々は、圧巻の多職種連携で、患者さまの喜び・ご家族の喜び・スタッフの喜びに深く感動しました。

協力医療機関の医師紹介

コロナ後遺症に漢方

桜十字病院勤務から独立して開業し７年が経ちました。循環器内科、漢方内科、心療内科を専門にしています。この３年はコロナに追われました。最近の当院の取り組みとしては、コロナ後遺症の診療です。後遺症を治すのは一筋縄ではいかないのですが、漢方の理論をあれこれ考えて治療しているうちに、いろんな後遺症はいくつかの処方パタンで対応できることがわかりました。
もう一つ、最近取り組んでいるのが中高生の朝起きられない、学校に行けないというもの。漢方を使うことでかなりの割合で朝起きられるようになり、自然と学校に行けるような体に変わってくるようです。
桜十字病院には訪問診療で大変お世話になっています。急な外来受診や入院依頼もスムーズに引き受けていただきありがたく思っています。今後とも、良きパートナーとして共栄できればと思っています。



院長
村上 和憲

医療法人社団トータルケア
むらかみ内科クリニック

〒860-0856
熊本県熊本市東区山ノ神 2 丁目 2-32
＜診療科目＞
内科・循環器内科・心療内科・漢方内科
＜診療時間＞
【平日・土曜午前のみ】午前 8：30 ～ 12：00　午後 14：30 ～ 18：00
【休診】日曜日・祝日・年末年始
往診・訪問診療 ご相談ください。

公式HP

096-331-2551

地域連携室からのご案内

ご入院のご相談、お問い合わせにつきましては地域連携室の看護師、社会福祉士が対応いたします。当院地域連携室は地域の医療・福祉に関するあらゆる相談窓口として機能しております。どうぞお気軽にご相談ください。

― 入院までの流れについて ―

医療機関からのご紹介　　患者さま・ご家族・ケアマネージャー等からのご相談

1 地域連携室
入院・ご相談の受付
096-378-1120

2 診療情報提供書のご提出
現在の主治医から診療情報提出書（紹介状）を郵送または、FAX でご提出ください。

3 入院判定
多職種の職員による入院判定にて当院でお引き受け可能かどうかを判定し、速やかにご紹介元にお返事します。

4 入院前面談・見学
クチタベ、透析患者さま、必要と判断された方には事前に面談を行います。
また、希望者への見学対応も行っております。

5 ベッド調整
準備が出来ましたら地域連携室職員からご紹介元へご連絡いたします。

6 入院

外来診療

地域連携室　師長：田中 弘恵

「生きるを満たす」ために

地域連携室では、入院調整、相談支援、情報連携、地域活動といった業務を行っています。室長である副院長吉永を含む、13 名の職員で構成しています。当院の方針である「生きるを満たす」の実現のために地域連携室では、以下 4 つの行動指針を設定し業務にあたっております。専門性向上とチーム医療の推進を目的に、2022 年よりユニフォームを一新しました。今も私のモットーである「愛情のこもった支援」を通し、地域包括ケアのシステムの中で桜十字病院の機能が発揮できるようチーム一丸となって走り続けます。

［ 地域連携室の方針「生きるを満たす」とは ］

① 退院の先にある「生活」を見据える
② 患者さまの権利を守り、自己決定を支え実現する
③ 自分らしい「生き方」を支える
④ 患者さまのストーリー（人生）に責任を持つ

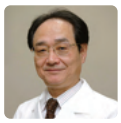
医師紹介

脳神経外科
院長
倉津 純一

脳神経外科
院長補佐
三原 洋祐

脳神経外科
賀耒 藍子

脳神経外科
北村 伊佐雄


呼吸器内科
副院長
地域連携室室長
吉永 健

呼吸器内科
青木 志保

呼吸器内科
安田 広樹

内科
副院長
坂本 興美

内科
秋山泰廣

内科
石原 まゆみ

内科
平島 まさ子

内科
吉本 美和

腎臓内科
白石 直樹

腎臓内科
藤本 歌織

循環器内科
医局長
森上 晴洋

循環器内科
藤井 裕己

消化器内科
瀬上 一誠

リウマチ
膠原病内科
院長補佐
中村 正

泌尿器科
上級顧問
吉田 正貴

糖尿病内科
西田 佳子

整形外科
山内 達朗

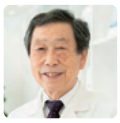
リハビリ
テーション科
川嵜 真

放射線科
古閑 幸則

外科
名誉院長
松田 正和

外科
特別顧問
池田 信二

外科
院長補佐
蓮尾 友伸


外科
坂本 英世

外科
益山 貞治

消化器外科
佐野 收

小児科
中村 俊郎

病院概要

■ 診療科目 21 科目

内科
循環器内科
呼吸器内科
消化器内科
リウマチ科
脳神経外科
脳神経内科
放射線科
麻酔科（蓮尾友伸）
皮膚科
精神科
糖尿病内科
泌尿器科
整形外科
リハビリテーション科
小児科
小児外科
外科
消化器外科
肛門外科

■ 総病床数　630 床

回復期リハビリテーション病棟 60 床
地域包括ケア病棟 45 床
障害者施設等一般病棟 163 床
緩和ケア病棟 25 床
特殊疾患病棟 60 床
医療療養病棟（在宅復帰強化型）277 床

■ 施設の特徴

在宅療養後方支援病院
脳卒中リハビリセンター
呼吸器センター
血液浄化センター
リハビリテーションセンター
└ 心大血管疾患リハビリテーション
└ 脳血管疾患等リハビリテーション
└ 運動器リハビリテーション
└ 呼吸器リハビリテーション

医療法人 桜十字
桜十字病院
外来受付時間
【平日】午前 9：00 ～ 12：00　午後 1：00 ～ 5：00
【休診】土曜日・日曜日・祝日・年末年始
096-378-1111
URL：www.sakurajyuji.or.jp

桜ふわり　冬号　2023年11月発行（26号）　発行・医療法人桜十字　桜十字病院　広報
〒861-4173　熊本県熊本市南区御幸木部1丁目1番1号　Tel：096-378-1533　Mail：jinji@sakurajyuji.jp　受付時間／9:00 ～ 17:00／土・日・祝日除く
公式ホームページへ ▼